

名古屋ライトハウス

アイのかけはし

第11号 平成23年4月

発行責任者

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

理事長 本間 英典

〒466-0855

名古屋市昭和区川名本町1-2

TEL 052-757-3522

FAX 052-757-3533

この度の「東日本大震災」により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
被災地の一日も早い復興を心より祈念しております。



Vol.
11

理事長あいさつ 再開にあたって P2

専務理事あいさつ アイのかけはし再開にあたって P3

戸田川グリーンヴィレッジオープン P4

緑風オープン P5

ISOの展開 これからのISO P6・P7

各施設の近況 “がんばってます!!” P6~P11

お知らせ P12



再開にあたって

理事長 本間 英典

この度、法人創立50周年に際して発刊されたこの機関誌「アイのかけはし」を、今一度法人全体の責任ある活動として見直し再出発する運びとなりました。

改めてこの紙面を通じて、皆様に名古屋ライトハウスの様々な活動へのご理解を深めていただければ幸いです。

本年は折しも

名古屋ライトハウス創立65年を迎える年でもあり、私が理事長に就任して9年が経とうとしております。

私はこれまで一貫して若い活力をもっと前面に出して活躍するよう職員に訴えてまいりました。

その声が実を結ぶかのように、今号でご紹介いたします戸田川グリーンヴィレッジの開設や名古屋市緑風荘の運営引継などに繋がってきたものと考えております。

幹から分かれた数々の枝葉が、よりたく安定した枝に成長するように、関係者の皆様の益々のご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。



アイのかけはし再開にあたって

専務理事 近藤 正臣

永らくお休みをいただいております「アイのかけはし」を再開することといたしました。この間にも、支援費制度から自立支援法の施行、介護保険法の改正など様々な改革が行われ、法人内においては、矢田マザー園の開設、KAN食品開発センターの開設など、皆様にお伝えしなければならないことがたくさんありました。

そして今年度におきましては、

自立支援法に代わる障害者総合福祉法の議論が進む中、

障害者支援施設「戸田川グリーンヴィレッジ」、就労継続支援事業B型「緑風」を開設することとなりました。

「アイのかけはし」はこうした私どもの想いや活動を広く皆様に知っていただくとても大切な手段の一つであり、皆様と私どもを結ぶ文字通り「かけはし」でございます。是非ご一読いただきますようお願いいたします。

「戸田川グリーンヴィレッジが目指すもの、大切にしたいこと」

施設長／上田 千春

平成23年4月1日、中川区富永一丁目の国道一号線沿いに障害者支援施設「戸田川グリーンヴィレッジ」がオープンしました。

人(チーム)も建物もコンセプトも全て真新しい。主に身体障がいを対象とし、生活介護と施設入所支援を併せて40室、短期入所8室の全個室、各部屋に洗面設備を設けたおおよそ一階建てのグループホームを大きくしたような作りのコンクリートと木作りの斬新で温かい建物です。

平成20年から株式会社ヤスウラ設計事務所との会議を、22年よりは施行業者塩浜工業も交えての会議を幾度も重ね、3年の準備期間を経て竣工に至りました。

コンセプトは「あなたらしく！」「地域と共に！」「全ての人が生き活きと！」個人個人の生活スタイルを大切に、最大限にニーズを尊重した生活支援を実践していく家でありたい、同時に近隣住民の方に障がいをご理解頂き、支えて頂きながら地域の福祉拠点としての役割を果たしていきたい、そしてここで働く職員や協力頂くボランティアさんも大切に育てていける場所であり続けたい。この3点を大切にしながら職員のチームワーク力を高め、前向きな運営を進



めていく所存です。

利用される方は重度の脳性まひの方や重症心身障がいの方、事故や病気などの後遺症による全身性障がいの方など様々です。個人個人のニーズに合わせた日中活動を準備し、入浴や食事にも力を入れていきます。浴室は機械浴(寝浴と座浴)と個室を準備し、専門スタッフが介助を行ないます。食事は適温で個人個人の食べやすさを追求し、見た目にもおいしく見える工夫をし、ソフト食にもチャレンジしていきます。館内には自由空間も多く、soracafe(喫茶)やたみスペースわかば、屋上テラスもあります。

3月に内覧会、竣工式を終え、現在は入所が始まり、施設内も活気づいてまいりました。これからもスタッフ一同、力を合わせて心ひとつに頑張っている所存です。

どうか戸田川グリーンヴィレッジを末永くお願い申し上げます。



「緑風」

春の息吹を感じる頃となりました。

日頃は名古屋ライトハウスの福祉への取り組みに、ご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。

季節も移ろい、春の色彩を見せるようになりましたが、そんな季節の中、当法人でも新しい事業所が芽を出しました。そのひとつが、(旧)名古屋市緑風荘から事業を引き継いだ「名古屋ライトハウス 緑風」です。

場所は名古屋市千種区猫洞通。地下鉄の本山駅・東山公園駅から北へ歩いて15分~20分。バスだと星ヶ丘~自由ヶ丘の真ん中で、ちょうど平和公園の南の入口の所にあります。街の喧騒から離れ、木立に囲まれた自然豊かな所です。

そんな「緑風」は、今年度より定員20名の就

所長／豊嶋 良幸

労継続支援B型事業としてスタートを致します。

ここにある写真は冬枯れの木立の中の「緑風」ですが、現在は春の装いになりつつある桜の木に包まれています。気候が良くなりましたら、ぜひ「緑風」へお出かけ下さい。緑の木立が暖かくお迎えを致します。

数ある事業所の中で、産声を上げたばかりの「緑風」。利用される方々に喜んでいただける事業所を目指して、「緑の新風」となりますよう努力をして参りますが、何をするにも経験の浅い「緑風」です。どうか名古屋ライトハウスの末弟として可愛がっていただき、今後とも皆さまのご指導をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



明和寮

SELP自販機 100台設置を目標 「きらっとOne プロジェクト」活動中!

「きらっとOneプロジェクト」とは、日本セルフセンターが会員施設や企業に設置推進をしている「SELP自動販売機」を、「明和寮」として本格的に事業活動の一環として、一年間で100台の設置斡旋を実現させようとする利用者の方の工賃アップを目的に行うものです。名の由来は、企業(き

ぎょう)の「き」とライトハウス(らいとはうす)の「ら」をとり、共にひとつ(One)に繋がるという意味合いがあります。昨年、11月11日に利用者、職員全員が参加してキックオフ宣言(決起大会)を行い、明和寮一丸となって取り組んでいます。設置にご協力いただける方は、明和寮までお電話を!



《今年もすごいぞ!》を合言葉に、 西部施設では平成23年度も 『ライトハウス福祉まつり』を開催いたします!

このまつりも、地域への紹介で復活し、他団体と連携を深め、復活後3回目、通算12回目の開催です。22年度は、施設を利用される皆さんは元より、地域の方ひいては港区を中心に遠方からもご来場頂き、何と約千名のお客様をお迎えする事ができました。内容も約30団体に出演していただき、大変な盛況振りでした。

《今年もすごいぞ!》 何がすごいのか?
4月23日(土)開催の『第12回ライトハウス福祉まつり』で、皆さん自身でお確かめください。いろいろな《すごい!》を用意してお待ちいたします。



これからのISO活動

品質管理責任者 村井 俊二

当法人では平成14年7月、ISO9001の認証を取得して以来、「福祉サービスの向上」を目指し様々な業務改善活動に法人全体で取り組んでまいりました。

また同時に、ISOの認証継続は当法人に於ける皆様の信頼を高める事になると、年1回の定期審査と3年に1度の更新審査を重ねてまいりました。今年は3度目の更新の年ですが、これを機に当法人は一つの決断をいたしました。

①長年培ってきた道具としてのISOは、仕事の正しい進め方の証として、これまで通り活用し業務改善に取り組んでいく。

②しかし、道具自体の良し悪しの証であるISO認証は「活動した結果の評価」=「信頼度の向上」に繋がらないため、ISO更新審査は受けない。

③「認証」やその維持管理にかかる時間と費用を、当法人に於ける方々に理解と協力を得るための広報的な活動に費やし、法人の信頼度を高めていく、という決断です。

その理由は、これまでの活動を振り返りその成果を考えた時、業務改善については一定の成果が認められるものの、当法人に於ける皆様の信頼が高まったかどうかについては大きな疑問が残るからです。

「ISOの認証を取りさえすれば福祉サービスは向上し、その権威によって信頼度も自然に向上する。」といった思い込みがあったように思います。

ISOは道具であり、その認証は良い道具の証であり、活動結果の評価の証ではありません。

法人が信頼を得るには、皆様の活動の評価が必要であり、それにはまず法人の活動を知らせて頂くことが重要だと考えます。

言うまでもなく、当法人は社会福祉法人であり社会的責任を担っており、我々の活動はその責任を果たす活動であります。

今後はこの視点に立ち活動を整理し、この「アイのかけはし」や法人のホームページ等を通して皆様にお知らせいたします。そして皆様のご理解やご協力を得る事を信頼の証として大切に育ててまいりたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

港ワークキャンパス

国産こんにゃく食品 加工工場始動!

港ワークキャンパスでは、新しい試みとして一般の食品メーカー様の委託工場として食品工場を開所しました。

ライトハウスの元業である「製缶」事業を柱に、平成22年9月より糖質制限乾燥こんにゃくの生産稼働を行っています。これは粒状のこんにゃくを特殊な製法により乾燥させたものであり、生米に混ぜて炊いていただくと低糖質、低カロリーのご飯になります。見た目もお米にそっくりです。障がいのある方が糖尿病の方の生活改善に役立つ食品を作るという社会的意義も含め、今後推進していくべき事業だと考えています。



▲こんにゃくを粒状に加工します



▲脱水して、バットにまんべんなく敷き詰めます



▲乾燥機に入れて乾燥させます

パンの缶詰 新商品予定!



また、同じ食品事業として5年前に開設したKAN食品開発センターでは、「パンの缶詰」の賞味期限3年物を本年から「5年物」へ商品展開しています。その他にパンの代わりに「ドッグフード」「ラスク」などを中身にして、「缶」につめた新商品なども販売していき、今後も多角的に事業展開していきます。

お貸しています! 社屋4階ホール

港ワークキャンパスでは新社屋4階のホールを地域の方、非営利団体に貸し出しています。

日頃はクラブの練習場所や年末年始の式典などで、総勢200名以上の方が集まることもできるスペースがあります。施設の利用者が使用する場所ですので、もちろん大型エレベーター、車椅子対応トイレ完備です。

現在は災害時の避難場所やポッチャなどの障害者スポーツの練習場として地域の方にご使用いただいています。



名古屋盲人情報文化センター

就任のごあいさつ

所長/武居 俊之

原田前所長が昨年12月末日で退任されたのに伴い、1月より所長となりました武居俊之と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。



さて、私も視覚障害者情報提供施設にとって、昨年の大きな話題は「サピエ」という名前のネットワークが構築されたことです。このネッ

トワークによって全国で製作された点字図書・録音図書の所蔵がわかるだけでなく、点字データ、音声データをパソコンからダウンロードしてしまうこともできるのです。今まで私たちは郵送という形で点字図書や録音図書を利用者の方に貸出して来ましたが、自宅で好きな時間にその場で点字を読んだり録音を聞いたりすることが可能になったのです。もちろん全ての方がインターネットを使える環境にあるわけではありませんので、代行の検索や今まで通り郵送貸出しもしています。

名古屋盲人情報文化センターには図書館の業務だけでなく、視覚障がい者の方の生活や暮らしに役立つ商品の販売、講座の開講、IT訓練などを行なっているサービス事業部、名古屋市のおたより、選挙の公約などの公的情報をはじめ、各種点字物を作製している点字出版部がございま

す。今後も視覚障害者の皆様の強い味方となるよう職員一同頑張っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

バス旅行を企画して

バス旅行実行委員/東・竹内・寺西・山崎

名古屋盲人情報文化センターでは、利用者、ボランティア、職員の交流を目的に日帰りバス旅行という行事を企画しています。申込開始から数日で定員が埋まる人気行事の一つです。隔年で開催しており、今回は11月25日、静岡県磐田市香りの博物館、浜松市楽器博物館へ大型バス2台、総勢73名での旅行となりました。香りの博物館では、自分の好みとパソコンでの性格診断に



よる香水作りを行いました。楽器博物館では、楽器を触って演奏出来る体験コーナーが一番賑わいました。お食事やサービ

スエリアでの休憩時間、バスでの移動時間も含めて、和気あいあいとした雰囲気がありました。私自身も初めての参加、緊張しながらの企画運営となりましたが、全員怪我もなく帰ることが出来たので、ほっと一安心しての帰宅となりました。何気ない会話を交わすことでお互いを知る事の出来る、今後のサービス提供の励みともなる1日でした。

瀬古マザー園

庭造り 環境整備プロジェクト 始動!

老人福祉施設 瀬古マザー園はオープンして早22年が経過し、建物や設備の老朽化が目立ってきており、近年では屋根や外壁あるいは空調設備といった基礎的な整備事業に迫られているのが現状です。

しかし、利用者様にとってはこれらの事業は整備されて当たり前であり、大いに自分たちの生活環境が改善されたとは思えない事柄です。

そんな反省から平成22年度、利用者様にとって心安げる生活環境整備の一環として庭の整備事業に着手いたしました。



このプロジェクトは、単に造園業者に工事依頼をすると言った類のものではありません。

これまで、マザー園の敷地には開所時に植えられた多種多様な草木があり、ごく限られた利用者様が園内の庭を散歩する風景がありました。しかし、草木とふれあい、庭を楽しむと言った豊かな風景には程遠いものでした。

また、室内で過ごすことが多い利用者様にとって四季を感じる事は非常に大切な事であり、四季の草木の話題は最適だと考えていましたが、園内に関連する話題は多くありませんでした。

そんな折、庭造りや草花を通して様々な活動を実践しているボランティアの方から、「出来上りを楽しむのではなく、庭に植物を植える処から参加するという活動型の庭造り」の提案があり、このボランティアの方の指導を受けつつ段階的に取組む事になりました。

昨年度は、玄関先の鉢植えに始まり、時計塔周りの前庭整備、地域祭りのブース参加、草花の種まきや野菜植えなど、利用者様が参加できる活

動を実施いたしました。

先に述べた通りこの庭造りを通じた活動は息の長いものです。園生活の豊かさにつながると信じて、一步一步楽しみながら進めていけたらと考えています。

ご来園の折には、是非活動の成果をご覧になって頂きたいと思います。

また、瀬古マザー園のホームページにも活動風景を掲載しておりますので併せてご覧下さい。



光和寮

東部施設、 今日も元気です。

東部施設は、光和寮、福祉ホームかわな・やすだ、クリエイト川名、あいさぽーと共々、今日も元気です。平成22年は、9月に親和会親睦旅行で日本昭和村へ、10月にレクレーション企画でリトルワールド、11月に福祉フェスティバル、12月は餅つきにクリスマス会と楽しく騒がしく行事を行っています。

東部施設の朝は5つの建物を結ぶ飯田街道と塩付通りを歩いて出勤する利用者や職員の道端での元気なあいさつから始まります。入所支援利用者ややすだ利用者は、寮棟からデイ作業棟までの約400mを毎日毎日、雨の日も風の日も暑い日も寒い日もポチポチ連れ立って歩いています。



デイ棟2階は部品加工科、43名の大所帯でパイロットインキのメーカーの組立や検品包装作業を中心に作業

しています。1階は「技能開発センター」、部品加工科の一部ですが、利用者の体調とペースに見合った生産活動と支援を行う部署で平成22年5月より活動を開始し、通常の下請け作業のほか押し花製品をワイワイコツコツと作り、昭和区福祉まつりや福祉の店などに出品しています。

10時前には生活介護とクリエイト川名の送迎車が到着し、デイ棟3階の活動部屋が活気付きます。両方の事業で20人以上の利用者が、卓球・カラオケ・手芸・ピース・料理作り・入浴・パソコン・音楽療法など思い思いの活動を楽しみます。

本部棟の2階は名古屋ライトハウス創設以来の伝統ある治療院です。針・あんま・マッサージの国家資格を持った10人の先生が9:30から19:30まで治療に当たっています。就労継続事業や



授産施設の一作業科目として運営しているこのような治療院は全国でも大変珍しい例です。みなさんも一度立ち寄っていただき試してみてください。本部棟3階は法人本部事務局と光和寮事務所です。

本部棟と道を挟んで西側に福祉ホームかわながあり、本部棟北隣は2階建ての作業棟です。平成22年4月に増築し活動スペースを拡大しました。1階は印刷科、オフセット印刷を中心に名刺・封筒・冊子などの印刷業務を行っており、オンデマンド機器を活用しての小ロットカラー印刷も注文を承っています。増築した1階は印刷科の録音速記部門です。視覚障がいの利用者を中心に音声対応パソコンを駆使しながら、会議や講演会等の録音テープをテキストデータに変換する作業を静かに静かにを行っています。2階は

名古屋東ジョブトレーニングセンター(就労移行事業)です。作業訓練やビジネスマナーの習得、企業での実習を通じて一般就労を目指しています。平成22年度は既に8名の方が就職することができました。いつも元気にあいさつしながら訓練しています。

東部施設は平成5～7年に3ヵ年整備を行い、現在の光和寮入居棟・本部棟・作業棟・かわな棟・デイサービス棟の姿になりました。18年が経過し、やはり建物や設備の所々を修復・修繕を施さなければならない状況です。昨年は寮棟や本部棟・デイ棟のエアコンの修繕を行っています。建物・機器はちょっと古くなりましたが、活動している利用者や職員は今日も元気です。みなさんも一度お立ち寄りください。



<助成事業の報告>

日本財団より下記の助成を受け、就労支援事業の設備等を整備いたしました。
ここにご報告いたしますと共に厚くお礼申し上げます。

○港ワークキャンパス 就労継続支援事業A型

施設名称：就労継続支援(A型)国産こんにゃく食品工場

工事内容：外装・内装・床・トイレの改修

機器整備：食品工場機器

(ボイラー・コンプレッサー・金属探知機・
リフトテーブル・乾燥ラック)

事業費総額：18,659,250円 助成金額：14,540,000円

事業完了日：平成22年8月31日



○光和寮 就労継続支援事業B型

整備車両：部品加工の製品運搬・製品及び部品運搬用トラック

整備内容：荷台床可動装置搭載アルバン

事業費総額：4,504,815円 助成金額：3,300,000円

事業完了日：平成22年10月27日



○光和寮 就労継続支援事業B型

就労種目：印刷・ボールペン部品の組み付け等

機器整備：製本機の整備、コンプレッサー一式整備、
電動昇降リフター整備

事業費総額：5,535,000円 助成金額：4,100,000円

事業完了日：平成22年11月6日



○明和寮 就労継続支援事業B型 印刷情報処理科

機器整備：製本機(自動無線綴じ機)の入れ替え整備

事業費総額：7,297,500円 助成金額：5,000,000円

事業完了日：平成22年11月22日



編集 後記

瀬古マザー園園長 三宅 均

長らくご無沙汰しておりました法人機関誌(アイのかけはし)を再発刊することとなり、大きさもB5版からA4版へ、縦書きから横書きへとリニューアルいたしました。

再開第1号は、新たにオープンした施設の紹介や最近の出来事を中心に読み易さを考えて掲載しました。

2回目以降の発刊につきましても、できるだけ多くの皆様にご愛読いただけるよう創意工夫してまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。